

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Factors correlating with serum birch pollen IgE status in pregnant women in Hokkaido, Japan: The Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル: 北海道の妊婦におけるシラカンバ特異IgE陽性率とその関連要因

ユニットセンター(UC)等名: 北海道UC

サブユニットセンター(SUC)名: その他

発表雑誌名: World Allergy Organ J.

年: 2020 月: 6 巻: 13 頁: 100128

筆頭著者名: 西條 泰明

所属UC名: 北海道UC

目的:

環境省エコチル調査のデータにより、北海道の妊婦におけるシラカンバ特異IgE陽性となる要因について明らかにすることを目的としている。

方法:

6858名の妊婦が解析対象で、生活習慣と各アレルギー既往は質問票により、また、出産歴、身長、妊娠前体重は診療記録により把握した。妊娠初期に採血を行い特異IgEを測定した。

結果:

30.2%がシラカンバ特異IgE陽性であった(≥ 0.35 UA/mL)。シラカンバ特異IgEは各アレルギー歴、特に食物アレルギーとアレルギー性鼻炎に関連していた。多変量ロジスティック回帰分析では、妊娠前Body mass index (BMI)25以上による有意のオッズ比の上昇、高世帯収入や身体活動量が第二五分位(参照カテゴリー: 第一五分位)で有意なオッズ比の低下を認めた。

考察:(研究の限界を含める)

日本全体ではスギ特異IgE陽性率が高いが、北部の北海道では花粉アレルギーとしてシラカンバの影響が大きいと考えられる。シラカンバ特異IgE陽性であることは各アレルギー歴に関連するが、特にアレルギー性鼻炎と食物アレルギーとしての口腔アレルギー症候群への影響が考えられる。ただ、生活習慣との関連については横断的な解析のため、因果関係の有無については明言できず今後の検討が必要である。

結論:

北海道の妊婦においてシラカンバ特異IgE陽性は特に食物アレルギーとアレルギー性鼻炎に関連した。また、BMI上昇が陽性となる要因として関連し、高世帯収入や軽度の運動が保護的な方向に関連していた。